

平成23年度ユースフォーラム報告書



期 間：平成23年9月17日（土）～18日（日） 一泊二日
テーマ：ローバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について
会 場：1日目 ボーイスカウト会館
2日目 国立オリンピック記念青少年総合センター



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目次

実施概要、実行委員長総評	1	
参加者名簿	2	
日程表	3	
日程	9月17日(土)	
	・開会式	4
	・フォーラムの導入	5
	・セッション1	6
	・セッション2	11
	・セッション3	15
	・採択方法の説明	19
	9月18日(日)	
	・メディテーション、採択の流れ説明、 全体会、採択	20
	・閉会式、日本連盟コミッショナーへ提言文の提出	21
平成23年度ユースフォーラム採択文・提言文	22	
アンケートとコメント	24	
平成23年度ユースフォーラムを振り返って	30	

平成23年度ユースフォーラム実施概要

- 名称** 平成23年度ユースフォーラム
- 期間** 平成23年9月17日(土) 10時～9月18日(日) 12時 1泊2日間
- 場所** 三鷹ボーイスカウト会館、国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)
- テーマ** 「ローバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について」
- 目標** 本フォーラムの目標
- ・参加者が、スカウト運動における意思決定の参画について理解する。
 - ・参加者が、テーマに則った討議からアクションプランなどを策定する。
 - ・青年加盟員の今後のあり方について、参加者自らで意見を集約し提言する。
- 参加者** 29県連盟 41人
- ・参加時点で18歳以上25歳以下のベンチャースカウト、ローバースカウトまたは同年代の指導者
 - ・所属県連盟のユース年代の意見を代表できる者

以上

—実行委員長 総評—

平成23年度ユースフォーラム実行委員長 膳師 功
(日本連盟プログラム委員長)

今年のユースフォーラムは、テーマを「ローバースカウト年代における活動の活性化と支援の強化」として開催し、全国から29の県連盟41人の参加者を得て、活発に議論がされました。議論の結果が採択文・提言文として集約されました。

フォーラム終了後には、参加者全員が参加し採択文・提言文を議長団から全国県連盟コミッショナー会議の席で新藤日本連盟コミッショナーに提出しました。

わずか2日間という短い日程ではありましたが、スカウト仲間と壮絶な議論を交わし、一方では、深い絆の友情をも育んだと感じました。将来を担う若い世代の熱き想いを少しでも、この運動に反映できるよう努力を重ねていきます。彼らもまた、提言した内容を具現化できるよう情熱を持って取り組んでほしいと願っています。

平成23年度ユースフォーラム参加者名簿

29 県連盟から41人参加

No.	県連盟	名前	性別	所属
1	北海道	中門 亮介	男	札幌第27団ベンチャー隊
2	宮城	五十嵐 麻依	女	石巻第6団ローバー隊
3	茨城	郡司 晃士	男	土浦第2団ローバー隊
4	栃木	田野井 櫻子	女	今市第2団ベンチャー隊
5	埼玉	正木 康太	男	本庄第1団ベンチャー隊
6	千葉	宇山 健太	男	富津第1団ベンチャー隊
7	神奈川	梅山 俊則	男	横浜第8団ローバー隊
8	神奈川	若原 裕磨	男	横浜第79団ローバー隊
9	神奈川	小泉 諒治	男	川崎第38団ボーイ隊
10	東京	田村 拓也	男	西東京第1団ボーイ隊
11	石川	岡山 貴洋	男	金沢第11団ローバー隊
12	福井	山田 容平	男	福井第7団ローバー隊
13	長野	中谷 永輝	男	立科第1団ベンチャー隊
14	岐阜	原 寛和	男	多治見第2団ベンチャー隊
15	岐阜	加藤 慧久	男	多治見第3団ベンチャー隊
16	静岡	西尾 崇伸	男	大井川第3団ローバー隊
17	静岡	原口 直子	女	富士第9団ローバー隊
18	愛知	伊藤 聖也	男	名古屋第87団ローバー隊
19	愛知	荒川 航一	男	名古屋第23団ローバー隊
20	三重	田中 宏汰	男	四日市第15団ボーイ隊

No.	県連盟	名前	性別	所属
21	滋賀	神鳥 佑磨	男	犬上第1団ベンチャー隊
22	京都	笹淵 賢人	男	京都第23団ローバー隊
23	京都	三浦 雄成	男	京都第23団ローバー隊
24	兵庫	吉田 一雄	男	尼崎第8団ボーイ隊
25	奈良	森本 成美	女	葛城第1団カブ隊
26	奈良	中田 大夢	男	北葛城第1団ローバー隊
27	奈良	森田 光貴	男	北葛城第1団ベンチャー隊
28	和歌山	村上 諒	男	海草第1団ローバー隊
29	和歌山	上土谷 友里	女	和歌山第18団ベンチャー隊
30	大阪	堀江 啓太	男	大阪第68団ボーイ隊
31	島根	高梨 淳貴	男	松江第5団ローバー隊
32	岡山	磯中 祥行	男	総社第3団ボーイ隊
33	岡山	増田 健太	男	津山第1団ベンチャー隊
34	岡山	河内 隆宏	男	岡山第23団ベンチャー隊
35	広島	小谷 鮎	女	広島第3団ローバー隊
36	香川	多田 裕貴	男	高松第9団ベンチャー隊
37	愛媛	仲村 元氣	男	新居浜第2団ローバー隊
38	愛媛	横井 隆太	男	新居浜第2団ローバー隊
39	福岡	小山 訓	男	北九州第57団ローバー隊
40	長崎	橋本 晴佳	女	長崎第9団ローバー隊
41	鹿児島	松林 礼実	女	阿久根第1団ベンチャー隊

〈平成23年度ユースフォーラム実行委員〉

実行委員長

委員

膳師 功 (プログラム委員長)

津田 繁 (プログラム委員)

黒澤 岳博 (プログラム委員)

高橋 一樹 (京都連盟与謝第1団ローバー隊)

鈴木 裕大 (山形県連盟山形第29団ローバー隊)

羽根田 賢 (愛知連盟豊田第16団ローバー隊)

平成23年度ユースフォーラム日程

1日目(9/17(土))		2日目(9/18(日))	
会場:BS会館		会場:NYC	
8:00			起床
		7:30	バスに乗車・NYCへ移動 (車中で朝食)
		8:30	メディテーション (10)
9:00		9:00	9:00 採択の流れを説明 (20)
	9:30 (参加者受付)		9:00 全体会 (90)
10:00	10:00 開会式 (20)	10:00	
	10:20 オリエンテーション (10)		
	10:30 アイスブレイキング (20)	10:30	(休憩) (10)
11:00	10:50 フォーラム導入 (60)	11:00	10:40 採択 (60)
12:00	11:50 昼食 (60)	11:40	閉会式 (20)
		12:00	昼食 (50)
13:00	12:50 セッション①導入 (50)	12:50	(再集合:提言文提出準備)
		13:00	日本連盟コミッショナーへ 提言文の提出
	13:40 セッション①分科会 (70)	13:30	解散
14:00		14:00	※以降、希望者はAPRワークショップ の基調講演を聴講できる。
15:00	14:50 セッション①全体会 (40)	15:00	
	15:30 (休憩) (20)		
	15:50 セッション②導入 (20)		
16:00	16:10 セッション②分科会 (70)	16:00	
17:00		17:00	
	17:20 セッション②全体会 (40)		
18:00	18:00 夕食 (60)	18:00	
19:00	19:00 セッション③導入 (20)	19:00	
	19:20 セッション③分科会 (70)		
20:00		20:00	
	20:30 セッション③全体会 (40)		
21:00		21:00	
	21:10 採択方法の説明 (20)		
	21:30 諸連絡/入浴・就寝準備		
22:00		22:00	
23:00	消灯	23:00	

1日目 9月17日(土)

9:30~10:00

●受付・開会式準備

1. 受付（事務局）
2. 開会式準備（羽根田委員、事務局）

10:00~10:20

●開会式（司会：羽根田委員）

三鷹ボーイスカウト会館3階講堂にて開会式を行った。

膳師実行委員長より激励の言葉を頂き、開会した。

〈式次第〉

1. 開式のことば
2. 国旗儀礼
3. 国歌斉唱
4. 激励の言葉（膳師実行委員長）
5. スタッフの紹介
6. 連盟歌斉唱
7. 閉式のことば



10:20~10:30

●オリエンテーション（担当：事務局）

1. フォーラム会場について
2. 会期中のスケジュールについて
3. 生活についての諸注意



オリエンテーション後、会館前に整列し、記念撮影を行った。



10:30～10:50

●アイスブレイキング（担当：高橋委員）

簡単なゲームを通して、参加者同士のコミュニケーションを高めた。

「スカウトBINGO」①所定用紙のマス目（25マス）にスカウトならではのあるあるネタを埋める。



②参加者1対1で自己紹介した後、「あなたは〇〇したことがありますか？」とマス目に記入したあるあるネタを質問する。

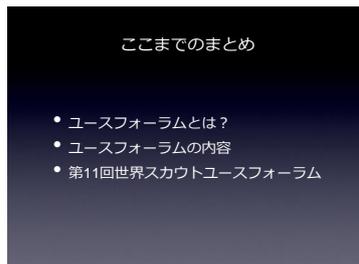
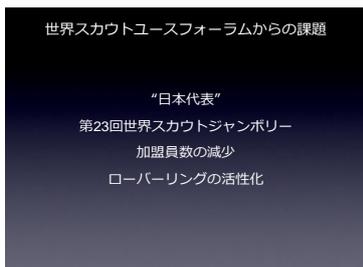
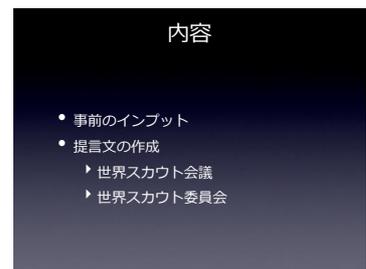
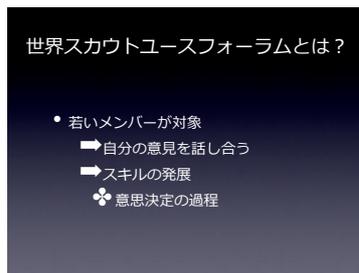
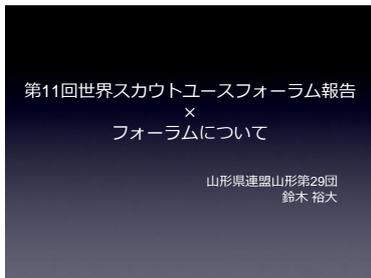
③該当している場合、そのマス目はクリアとなり、BINGOを完成させれば終了。

10:50～11:50

●フォーラム導入（担当：鈴木委員）

1. 進め方など、フォーラム全般についての導入を行う。
2. 日本国内だけではなく、世界の動きも分かる形で導入を行う。

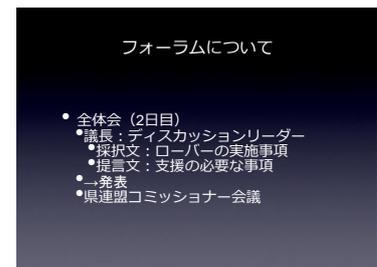
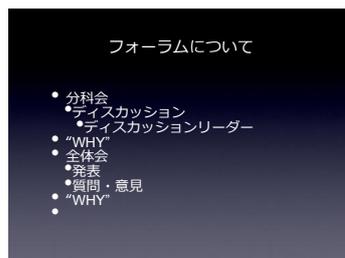
第11回世界スカウトフォーラムに参加した鈴木委員から参加報告が行われ、世界の動きと今回のユースフォーラムの繋がりについて説明した。



世界スカウトユースフォーラムについての報告の後、今回のユースフォーラムの具体的な進め方と2日間の流れの説明があった。

採択文はローバー自身が行う実施事項として定め、提言文はそのために必要な支援を求めるものとして定めた。

フォーラム中は常に‘WHY’（なぜそうなのか）を追及することの重要性を強調した。



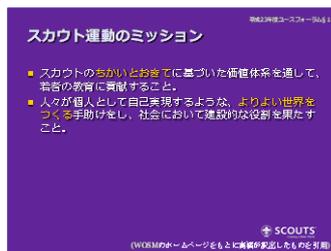
13:00～15:30

●セッション①：ローバー活動の実情と課題について（担当：羽根田委員）

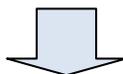
セッションのねらい

- ・参加者がそれぞれ異なるスカウティングで、どのような活動をしてきたかを共有する。
- ・共有した事項を基に、課題・解決策について考える。
- ・参加者の情報レベルの均等化を図り、県連や地区、原隊に戻った時に活動をおこすきっかけ作り。

セッション① 導入（50分）



ローバー（ユース）活動ってなに？



いくつかの活動形態を考えることが出来る。

例えば・・・

・個人及び、隊のプロジェクトとしての活動



・他隊へ指導者として奉仕



・地区または、県連盟単位でのローバースグループ活動



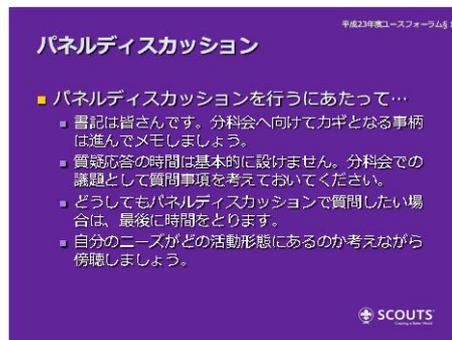
・日連単位でのローバースグループとしての活動



今回のユースフォーラムに参加しているスカウトも様々な形態で活動を行っている。
参加者の中から、活動内容を基に数名のパネリストを選出し、パネルディスカッションを行った。

ディスカッションテーマ
「ローバーの活動の実情と課題について」

パネラー	
「県連組織型」	伊藤 聖也
「県外活動型」	原口 直子
「海外派遣型」	西尾 崇伸
「指導者型」	森本 成美
「ローバーって何？」	上土谷 友里



セッション① 分科会 (70分)

パネルディスカッションで出た課題などについてテーマを設定し、自分のニーズに合うテーマを選び、班を構成して分科会を行った。

〈討論テーマ〉

- ・ 県連、地区単位での活動について
- ・ 県外での活動について
- ・ 海外派遣活動について
- ・ 他隊に指導者として行っている活動について
- ・ ローバースカウトについて

〈討論方法〉

- ・ 自らが議論したいトピックを選び、自主的にグループを編成する。
- ・ ディスカッションリーダーを選出し、討論を進める。
- ・ 書記を選出し、記録を作成する。
- ・ 発表方法は特に定めのないものとする。



セッション① 全体会（40分）

分科会での討論結果をグループごとに発表した。

- ※1、「県連・地区単位での活動について」のグループが2つに分かれたため、それぞれをA、Bとした。
- ※2、「他隊に指導者として行っている活動について」のグループが3つに分かれたため、それぞれをA、B、Cとした。

「県連・地区単位での活動についてA」

-課題と現状-

- ・人数不足→ローバーに限らず、ボーイスカウト全体に言えること。
- ・活動の単純化→カブやボーイに比べて活動に満足できていない。
- ・外部からの理解が少ない→同じ団の後輩ですらローバーの活動を理解できていない。

-解決策-

- ・活動に参加していないローバーを巻き込む。
- ・下の年代（後輩）を育てる。
- ・外部に開かれた活動をすることでローバー活動の魅力を知ってもらう。



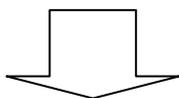
「県連・地区単位での活動についてB」

①地区や県連単位のローバー組織を作る動きがある県連も存在する。実際に愛知にはユース年代の自治組織がある。

しかし、目的や位置づけ方向性が定まっていないため、組織化できないでいるのが現状である。そのため、ローバー年代の交流の場を持ち、より多くのローバーからの意見が欲しい。

②ベンチャーの内からローバーを意識させる。例えば、ローバー組織でベンチャーフォーラムの運営を行い、ローバーの活動を身近に知ってもらう。

③情報を共有する。例えば、mixi や twitter を活用することによって情報に触れる機会を設ける。



- ・理解のある指導者を求める。
- ・ローバーハンドブックの出版を求める。
- ・ローバースカウト向けの研修所の開設を求める。



「県外での活動について」

-現状の問題-

- ・他県のユース組織があった場合、一人では入りづらい。逆に無かった場合は活動を行うことが出来ない。
- ・進学や就職で地元を離れた場合、活動ができない。進学先などでの活動の場が欲しい。
- ・従登録が難しい。里親制度もあるが、うまく導入できていない。
- ・受け入れ先での相性が悪い可能性がある。
- ・原隊が従登録を好まない場合がある。
- ・大学ローバーの質が低い。アウトドアサークルとして位置づけされている場合がある。

-解決策-

- ・日本ユースの一体化
- ・スカウト里親制度の利用
- ・スカウト同士の情報共有
- ・大学ローバーの受け入れ体制構築



「海外派遣活動について」

-現状の課題-

- ・海外派遣の認知度が低い
- ・派遣自体は知っているが、具体的に何をしているのか理解している指導者が少ない。
- ・もっと社会一般にも知ってもらう必要がある。

-解決策-

自分たちから伝えていく必要がある。

- ・派遣内容や活動の目的を広く伝える。
- ・参加して参考になったことや、現地での写真などを公開する。
- ・スカウトだけではなく、一般青年にも伝える。(ウガンダ派遣等は一般からも募集している。)
- ・伝える場として日本連盟として公式の報告会を開催して欲しい。報告会参加者との直接対話を通してより良い意見を聴くことができ、次の派遣に活かすことが出来る。



「ローバースカウトについて」

-現状- (各県連盟や団によって状況が異なる。)

- ・活動が盛んではない地域は、ローバースカウトの認知度も低い。
- ・地方の団にはローバー隊が存在しない場合がある。
- ・里親制度が利用できず、ベンチャー登録のままになっている。
- ・ローバーの人数は多いが活動は少ない。←指導者側にまわっている。

-解決策-

- ・ローバー隊を団で一つ設けるのが難しい場合は、地区や県で一つ設ける。
- ・ローバー活動を行っている団に報告会などを開いてもらう。ローバー主催のプロジェクトにベンチャースカウトが参加できる機会を設ける。



「他隊に指導者として行っている活動についてA」

-現状-

ローバーと指導者のジレンマを抱えている。

〈ローバーの魅力〉

- ・これまでの技術を活かした個人プロジェクトができる。
- ・ローバーにしか参加できない派遣などがある。
- ・地区ローバーや県ローバーとして幅広い活動ができる。

〈指導者の魅力〉

- ・子どもの成長を見ることが出来る。
- ・指導者としてジャンボリーに参加できる。

どちらにも魅力があり、辛い面もある。どちらかを選ぶことが出来ない。

このようにジレンマを抱えている状況の中で、今回のユースフォーラムで何かを感じ取りたい。



「他隊に指導者として行っている活動についてB」

テーマ：若手指導者がどのように活躍することができるか

-現状-

- ・リーダーとしての能力不足。←能力を補う場所が少ない。
- ・雑務に追われて、能力向上を図る時間が無い。
- ・県によっては講習会などを開いているが、保護者向けである場合が多い。
ある程度経験を積んでいるスカウトは、技能はあるが指導能力がない。
そういった若手指導者用の講習会はない。
- ・若手の意見が通りにくい県や地区が多い。

-解決策-

- ・地区や県連の運営に若手を取りこむ。
- ・若手の指導者が活躍するための役職が必要である。



「他隊に指導者として行っている活動についてC」

テーマ：若手指導者と年配指導者の関わり方

-現状-

- ・若手と年配指導者の間でコミュニケーションが取れていない。
- ・活動がただ楽しいだけで終わっている。
- ・ユース年代の指導者まで話がまわってこない。
- ・隊指導者との方針の違いがある

-解決策-

- ・隊別指導者会議を開催する。
- ・子ども会のような活動にならないようにボーイスカウトらしい活動を行う。
- ・理解ある指導者を養成するために、長い期間での団の改革が必要である。



15:50～18:00

●セッション2：フリーセッション（担当：鈴木委員）

セッションのねらい

- ・参加スカウトが自ら意欲のあるトピックについてディスカッションする機会を提供し、スカウトの自主性を育む。
- ・フリーセッションの中でも、トピックの例として前回のユースフォーラムの振り返りを挙げることで、スカウトがユースフォーラムの連続性を認識する。
- ・参加スカウトの胸中にあるアイデアを全体で共有する。ディスカッションを行うことにより、他のスカウトの意識の変化を狙う。

§2 導入（25分）

- ・フリーセッションの目的を説明
- ・参加者にディスカッションしたいトピックを挙げてもらう。
- ・挙げられたトピックを整理し、7～8つにまとめる。

§2 分科会（65分）

〈討論テーマ〉 ※導入で挙げられたトピックを整理し、以下の8つトピックについて討論を行うこととした。

- ・団の合併の是非について
- ・団の加盟員について
- ・海外スカウトとの交流について
- ・前回のユースフォーラムを振り返って
- ・普段のローバリングについて
- ・地区で分ける必要性について
- ・教育規程、ローバースカウトハンドブック、ローバースカウト研修所について
- ・後輩スカウトへのローバースカウトとしての指導について



〈討論の方法〉

- ・自らが議論したいトピックを選び、自主的にグループを編成する。
- ・ディスカッションリーダーを選出し、討論を進める。
- ・書記を選出し、記録を作成する。
- ・発表の方法は特に定めのないものとする。

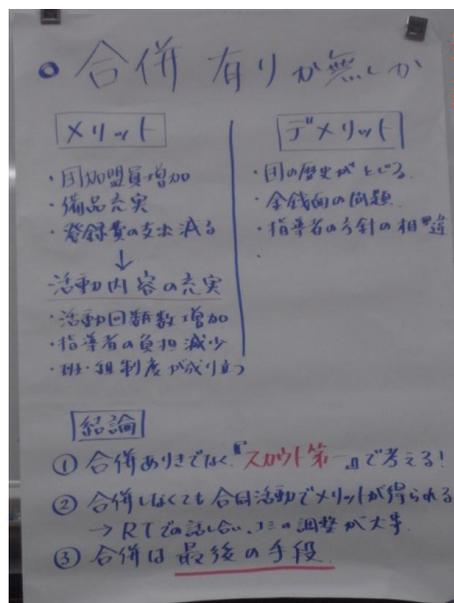


§ 2 全体会(40分)

分科会での討論結果をグループごとに発表する。

「団の合併の是非」

- ・団を合併した場合のメリットとデメリットを挙げ、合併した場合にスカウト達にどのような影響があるかを考える。
- ・団の合同活動により合併のメリットを得ることが出来る。その際には、県連盟コミッショナー等の調整役が必要である。
- ・団の合併は最終手段として考えたい。



「団の加盟員」

(加盟員拡大のために)

- ・加盟員を増やすためには、保護者同士の口コミが最も有効的である。
地域のイベント(例えば、地域内清掃や地元のお祭り)に参加した際にボーイスカウトの良いイメージを見せよう。興味を持っていただいた方には説明会などに参加していただく。
- ・地域の活動に積極的に参加することが、重要である。
- ・一気に増やすことは難しいが、少しずつ増やしていくことが加盟員拡大に繋がる。



「教育規程、RSハンドブック、RS研修所」

-現状-

- ・ローバースカウトハンドブックが数年前から販売していないため、ローバーに上進しても活動の指針がない。←結果的にローバー活動が縮小してしまう。
- ・研修所が開設されていないため、ローバー隊長も的確なアドバイスを与えることができない。

-結論-

- ・教育規程に基づき、ローバースカウト研修所の開設を求める。
- ・ローバー年代の意見を踏まえた上で規程の改定を求める。



「海外スカウトとの交流」

〈スカウトフレンズを作るためには〉

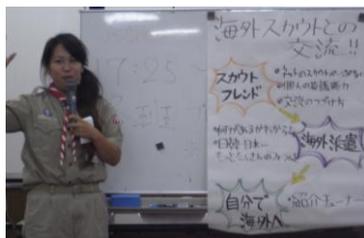
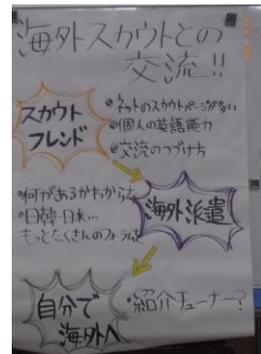
- ・Facebook などのSNS（インターネット上のサービス）を利用する。
- ・個人の語学力を上げる。
- ・交流を単発的なものではなく、継続的に行うことが重要である。

〈海外派遣〉

- ・派遣に関する周知が不足している。
- ・日韓フォーラムなど、国内で海外のスカウトと交流する機会もある。
- ・より多くの海外交流フォーラムを行うべき。

〈自分で海外へ〉

- ・自己手配で海外に行く場合に、日本連盟発行の公式な紹介状などを出して頂きたい。
- ・留学先を紹介してくれる仲介役的な存在が欲しい。



「前回のユースフォーラムの振り返り」

平成21年度ユースフォーラムの振り返りを行った。提言から2年が経過した平成23年度で振り返ることで、ユースフォーラムの連続性を意識し、その後の経過を確認した。

- ・「スカウト里親制度」は未だに東京連盟のみでの導入に留まっている。
- ・2012年開催の第11回日本アグーナリーはユース年代が本部署員として重要な役割を担うので積極的に参加して欲しい。
- ・海外派遣の報告会を各県連盟、地区、団レベルで義務化して欲しいとの提言があるが、義務化されていない。
- ・スカウトフォトコンテストは行われているが、そこに動画も上げることが出来るようにし、優秀な作品はCMなどで流したい。



「普段のローバリング」

グループで討論を行う中で、疑問が多く浮上したので、参加者に意見を求める形をとった。

〈普段ローバリングとして、どのようなプロジェクトを行っているのか?〉

- ・保護者のためのキャンプを実施した。 ・月に一回のローバー会議を行っている。
- ・カブやビーバー向けに運動会を企画した。

〈活動費はどのように捻出しているのか〉

〈他団のローバーとどのように交流しているか〉

「地区で分ける必要性」

-メリット-

- ・基準（責任の所在）がはっきりしている。
- ・動きが取りやすい。

-デメリット-

- ・地区によって、人数面でのばらつきがある。
- ・地区内でプロジェクトが解決してしまい、閉塞感がある。←他の活動状況を把握できない。
- ・責任の所在を考えると自由に他の地区や県で活動することが出来ない。

-結論-

- ・地区を越えて活動を行う場合に、県連盟に仲介役をお願いしたい。



「後輩スカウトへのローバースカウトとしての指導について」

〈なぜ続けてきたのか〉

- ・子どもの成長を見るのが楽しい。 ・生きがいを感じる。
- ・自分が指導したことを子どもたちが身につけてくれると嬉しい。

〈下の世代に何を伝えることが出来るか〉

- ・ローバーとして活動している姿を見せる。
- ・年齢の近い指導者だからこそ、相談に乗りやすい。
- ・自分たちの活動の中で辛かったことや面白かったことを後輩に伝えていく。



19:00～21:10

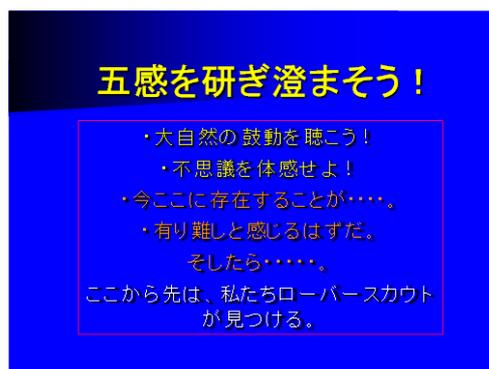
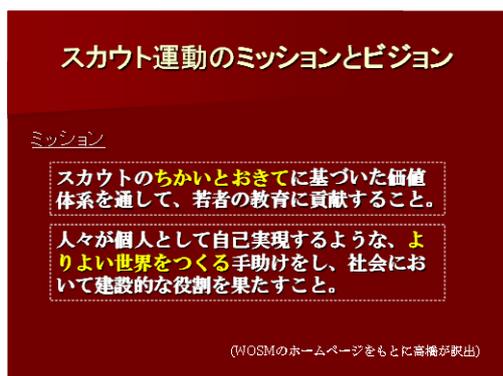
●セッション3：これからのユース活動について（担当：高橋委員）

セッションのねらい

- ・今までの議論を踏まえて、今後のユース年代の活動展開についてさらに議論を深める。
- ・日本連盟、県連盟単位での活動を検討し、具体的なアクションプランを策定する。

§3 導入（20分）

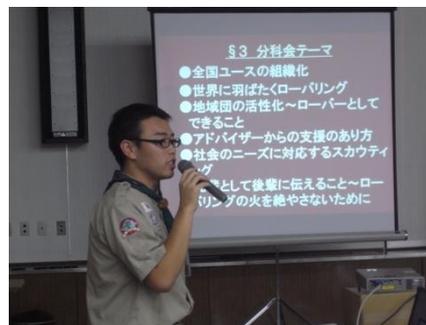
- ・セッション1とセッション2の振り返りを通して各セッションの目的を再確認した。
- ・スカウト運動の「ミッション」と「ビジョン」の確認をした。



§3 分科会（70分）

〈討論テーマ〉 ※セッション1、セッション2を踏まえた上で実行委員会により選定

- ・全国ユースの組織化
- ・世界に羽ばたくローバリング
- ・地域団の活性化～ローバーとしてできること
- ・アドバイザーからの支援のありかた
- ・社会のニーズに対応するスカウティング
- ・先輩として後輩に伝えること～ローバリングの火を絶やさないために



〈討論の方法〉

- ・自らが議論したいトピックを選び、自主的にグループを編成する。
- ・ディスカッションリーダーを選出し、討論を進める。
- ・書記を選出し、記録を作成する。
- ・発表の方法は特に定めないものとする。



§ 3 全体会 (40分)

分科会での討論結果をグループごとに発表する。

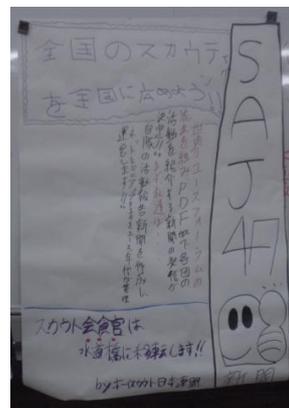
各グループ発表の時間は5分程度とする。

- ※「社会のニーズに対応するスカウティング」についてのグループが3つに分かれたため、それぞれをA, B, Cとする。

「地域団の活性化～ローバーとしてできること」

〈アクションプラン〉

- ・スカウト新聞の作成、発行
 - 紙媒体で発行するのではなく、データで各団の活動を全国に発信する。
 - 新聞作成や記事のネット掲載等をユース年代が行う。
 - 各団のユース年代が担当になり、自団の活動内容を新聞に報告する。



「全国ユースの組織化」

-目的-

- ・ユース年代活動の活性化と円滑化

-目標-

- ・情報の共有
- ・日本連盟との意識調整
- ・海外派遣の代表選出
- ・活動の提案

-問題点-

- ・参加者の選出方法
- ・参加できない県への対応

→新しくホームページを開設して活動の報告を行う。



「社会のニーズに対応するスカウティングA」

〈ボーイスカウトだからできること〉

他の青少年団体と比べて、ボーイスカウトに出来ることではなく、ボーイスカウトだから出来ることを社会にアピールしていく。

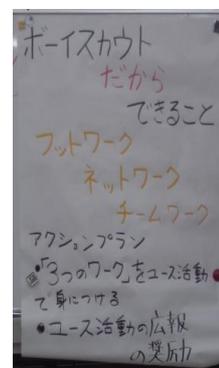
〈キーワード〉

フットワーク・ネットワーク・チームワークを兼ね備えたスカウトを目指す。

〈アクションプラン〉

上記の3つのワークをユース活動に取り組み、身につける。

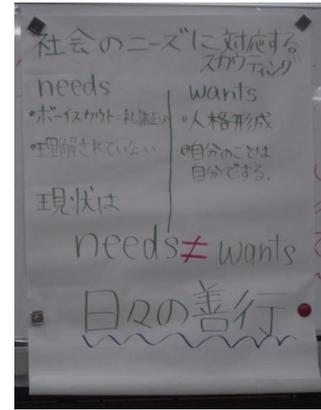
ユース年代から、3つのキーワードを発信し、広報に力を入れる。



「社会のニーズに対応するスカウティングB」

〈Needs と Wants の面から考える〉

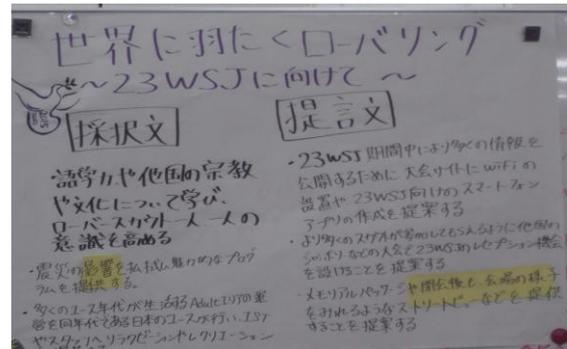
- Needs は社会（親）から求められているもの。
 - 礼儀正しい子どもに育ててほしい。
 - 家族でキャンプに行きたい。
- Wants はボーイスカウトの教育理念のようなもの。
 - 人格形成や「ちかい」と「おきて」の実践
- Needs と wants の間には認識の違いが存在している。
Needs 側（保護者）にボーイスカウトの本質を理解してもらうことが大切である。そのためにはやはり、「日々の善行」の実践が重要である。



「世界に羽ばたくローバリング」

〈第23回世界スカウトジャンボリー〉

- ローバリング活動の中で世界とどのように関わるかが問われている。
- 海外派遣や海外スカウト受け入れ計画など、関わる機会はいくつかあるが、今回は4年後の23WSJに関して採択文と提言文を作成した。



「社会のニーズに対応するスカウティングC」

〈地域一体型のカントリー大作戦の実行〉

- BSの認知度が低いことを憂慮し、地域密着型の奉仕活動に力を入れる。
- ローバー年代で清掃活動を企画し、一般の方に参加して頂く。
- 参加者にボーイスカウトの活動に関するパンフレットを配布することで、認知度を上げる。
- 清掃活動を企画する際は、ボーイスカウトらしさ（例えば、ゲーム性を取りこむ）を出すことで、地域主催の清掃活動と差別化を図る。



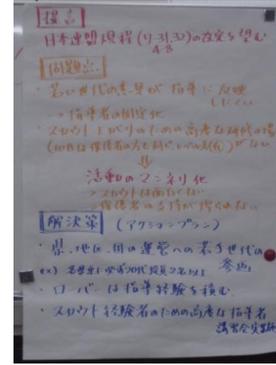
「地域団の活性化～ローバーとしてできること」

-問題点-

- ・若い世代の意見が指導に反映しにくい。→指導者の固定化
- ・スカウト経験者のための高度な研修の場がない。
→保護者の方とのレベル的差異が必要

活動のマンネリ化が生じている。

- スカウトが面白みを感じられなくなる。
- 保護者からの支持が得られない。



-解決策-

- ・県連盟や地区、団の運営へのユース年代の参画。
- ・ローバースカウトは指導経験を積む。
- ・スカウト経験者のための高度な指導者講習会を実施する。



-提言-

- 日本連盟教育規程（4-8、7-31・32）の改定を望む。
（※平成23年度版「日本連盟規程集」P58、P75参照）

「先輩として後輩に伝えること～ローバリングの火を絶やさないために」

〈先輩から伝えられたこと〉

- ・自分の一歩前に立って活動している姿。自分よりも高度な活動の様々を感じ取った。

〈後輩に伝えたいこと〉

- ・活動の楽しさ、活動の有意義さ。

〈どのように伝える？〉

- ・後輩たちを集め、「気持ちを伝えるオリエンテーション」を各団で定期的に開催する。
活動の紹介や自分の失敗談等を話す交流の場を設ける。



「アドバイザーからの支援のあり方」

-現状の問題点-

- ・ローバー隊の指導者が機能していない。
- ・ローバースカウト自身が何をすべきかの指針がない。

-ユース年代が何を求めているか-

「活動がしたい！」

〈アクションプラン〉

- ローバースカウトが自らアドバイザーを選出する。
- ローバースカウトハンドブックの出版を求める。
- ローバースカウト研修所の開設を求める。



21:10～21:30

●採択方法の説明（担当：高橋委員）

フォーラムの流れを振り返り、採択文と提言文の作成に関する説明が行われた。

採択文とは・・・

「自らがアクションを起こす内容」

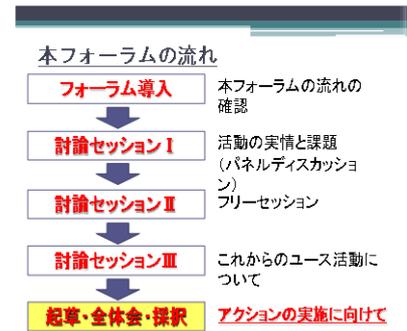
提言文とは・・・

「採択事項の実施にあたり、全国・県連盟レベルでサポートが必要なこと。」

「自分たちでは実施不可能だが、日本連盟や県連盟に実施して欲しいこと。」

〈起草委員及び議長団の選出方法〉

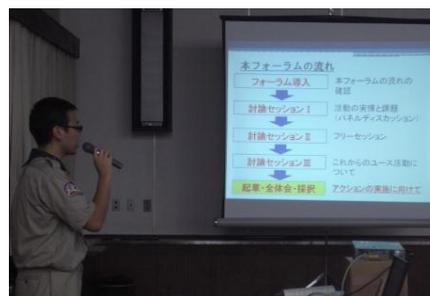
- ・セッション1から3を通して、各分科会のディスカッションリーダーを務めた者を起草委員とする。
- ・起草委員会の中から、互選により議長団を選出する。



本フォーラムの趣旨

スカウト運動の主役である青少年がより**活発な活動を実践する**事ができるような**アクションプラン**を作り上げる

議長団の選出



2日目 9月18日(日)

三鷹ボーイスカウト会館より渋谷区のNYCへ参加者全員はバスにて移動し、2日目にフォーラムはNYCへと会場を移して実施された。

8:30～8:40

●メディテーション

- ・音楽と写真とメッセージから構成された映像を上映した。
- ・気持ちを落ち着かせ、2日目のプログラム開始の導入とした。

8:40～9:00

●採択の流れを説明(担当:高橋委員)

- ・採択の議事進行ルールを確認した。
- ・起草委員の互選によって選抜された議長団の紹介を行った。



議長団

議長	: 正木 康太 (埼玉)
副議長	: 梅山 俊則 (神奈川)
	: 伊藤 聖也 (愛知)
記録	: 原口 直子 (静岡)
テラー	: 吉田 一雄 (兵庫)
マイク	: 宇山 健太 (千葉)

9:00～10:30

●全体会(担当:議長団)

- ・議長より、起草委員が作成した「平成23年度ユースフォーラム採択文・提言文」の読み合わせが行われた。
- ・「採択文・提言文」について、各項目の内容に関する質疑応答が行われた。
- ・「採択文・提言文」について、各項目の修正動議が行われた。

10:40～11:40

●採択(担当:議長団)

- ・全体会での質疑応答、修正動議を基に作成された「平成23年度ユースフォーラム採択文・提言文」の採択が行われた。
- ・参加者の挙手により「賛成」「反対」「棄権」のいずれかに投票を行い、「賛成」が過半数以上を得たものを採択した。

11:40～12:00

●閉会式（司会：羽根田委員）

〈式次第〉

1. 開式のことば
2. フォーラム提言の発表
3. フォーラム講評（津田委員）
4. 連盟歌斉唱
5. 国旗儀礼
6. 閉式のことば



13:00～13:30

●日本連盟コミッショナーへ提言文の提出

1. 開式のことば
2. フォーラム提言の報告（議長から日本連盟コミッショナーへ）
3. 日本連盟挨拶（新藤信夫日本連盟コミッショナー）
4. 議長団の言葉（埼玉県連盟 正木康太）
5. 連盟歌斉唱
6. 国旗儀礼
7. 閉式のことば



正木康太議長から新藤信夫日本連盟
コミッショナーへフォーラム提言の
報告を行った。

※「平成23年度ユースフォーラム採択文・提言文」は次頁以降（P22～P23）に掲載（ご確認下さい。）

※上記の通り、この「採択文・提言文」は「平成23年 第2回県連盟コミッショナー会議」において、参加された県連盟コミッショナーを前に、ユースフォーラム議長より全文を朗読発表し、その後、新藤日本連盟コミッショナーに提出した。

※提出後、全県連盟コミッショナーには「採択文・提言文」を配付し、席上では議長団全員（6名）から、今後の支援要請を含み、参加所感が述べられた。

※なお、この「採択文・提言文」は9月22日発行「事務局ニュース第24号」にて添付掲載して各都道府県連盟へ送付するとともに、本年10月に全面改訂（リニューアル）された日本連盟ホームページにおいても公開（10月14日付）している。

（参考URL：<http://www.scout.or.jp/>）

平成23年度ユースフォーラム採択文・提言文

私たち、「平成23年度ユースフォーラム」参加者41名は、「ローバースカウト年代における活動の活性化と支援の強化」のテーマのもと、活発に議論しました。

以下の内容を採択し、提言します。

平成23年9月18日

平成23年度ユースフォーラム参加者一同

A. 県外への進出

ローバースカウト及び同年代の指導者（以下ユース年代とする）が進学や就職により所属団を離れ、その進学・就職先でのスカウト活動が困難である現状と、他県連盟での従登録をするのが容易ではなく、その結果により、開かれたスカウト活動ができておらず、全国で唯一、制度として確立している東京連盟の「スカウト里親制度」をもとに、

- 移転先での活動を望むスカウトはスカウト活動を行うために移転先の県連盟を訪れ、斡旋の依頼をする。
- 各県連盟のユース年代が窓口を設置し、ユース年代が望むスカウト活動ができるよう斡旋する。
- 東京連盟が実施している「スカウト里親制度」の全国化・機能確立と認知度の向上を日本連盟に提言する。
- 県連盟はユース年代がスカウト活動を行うために他県連盟での従登録をすることを理解し、他県連盟のスカウトを受け入れてもらう態勢を整えることを提言する。

B. 平成21年度ユースフォーラム（前回）の提言を振り返って

平成21年度ユースフォーラムで採択された提言文、アクションプランが実現・実行されていない現状を踏まえ我々は

- フォーラム毎に前回フォーラムの振り返りを行うこととし、継続的課題の再確認をすることとする。また、継続的課題の解決に向けて当該フォーラムで取り上げ、前回よりさらに発展した解決方法を考えることとする。
- 平成21年度ユースフォーラムで採択された提言文、アクションプランから各種媒体を利用することを提案されたのを受け（提言文6、プロフィール参照）、スカウト自身が第23回世界スカウトジャンボリーの事前広報活動に参画することができるように、スカウト動画コンテストを開催し、第23回世界スカウトジャンボリーの国内広報に役立てることを提言する。
- 地区・県連盟・日本連盟の各種フォーラムでは前回フォーラムの振り返りの時間を確保することを提言する。

C. 第23回世界スカウトジャンボリー

日本のスカウトの語学力や宗教、異文化の知識が低いと心配されていることを憂慮し、

- 宗教や他国の言語や文化について学ぶ。
- テーマに合わせみんなで手をつなぎ、大きな“わ”を作るような全員で作りに上げるプログラムを提供する。
- スタッフの多くはユース年代であり、同年代の私たちが運営にかかわることでスタッフが必要としているものを理解した上で、それを活用しスタッフへ、例えば、足湯のようなリラクゼーションやバレーコートなど、レクリエーションを提供する。
- 第23回世界スカウトジャンボリー期間中により多くの情報を公開するために、大会サイトにWi-Fiの設置や第23回世界スカウトジャンボリー向けのスマートフォンアプリの作成を提言する。
- より多くのスカウトが参加してもらえるように他国のジャンボリーなどの大会で第23回世界スカウトジャンボリーのレセプションの機会を設けることを提言する。
- メモリアルパッケージや閉会後も、会場の様子を見られるようなストリートビューなどを提供する。ことを提言する。

D. ユース年代における全国組織

本連盟規程集のローバースカウト活動の実施の項目7-32より、ローバースカウトは自治運営を求められたスカウトセクションであると認識し、第11回世界スカウトユースフォーラム提言文Aにおいても、青年参画及びローバー（ユース）活動の活性化は重要視されていることを受け

- ローバースカウトによる全国規模の自治組織の開設にあたり、2012年1月末日までに、平成23年度ユースフォーラムの参加者をもとに、運営に関する諸事項の決定を行う委員会を新たに設ける。

以下、組織についての説明である。

この全国ユースの自治組織は、スカウト活動に関する情報の共有、都道府県ごとのユース年代自治組織からの提案・要望の収集、より充実した活動の提案、海外派遣の代表選抜、全国フォーラムの運営、日本連盟とユース年代のスカウトからの意見調達、全国のユース年代のスカウトの交流の場となる。

- この組織の運営のために日本連盟や各県連盟には、参加者の募集、調整と活動場所の提供を依頼する。

E. アドバイザーからの支援のあり方

ローバースカウトが何をすればいいかわからない、そしてローバースカウト活動の幅の広さを深く理解して、自分達の希望を実現するために適切に導いてくれる指導者が少ない点を考慮し

- ローバースカウトとして活動を行うために、自らアドバイザーを選ぶ。
- ローバースカウトが自治をするための指針が無く、どう運営すればいいか困惑しているローバースカウトが多いことを鑑み、ローバースカウトハンドブックを改定し、販売することを提言する。
- ローバースカウトが悩みを抱え、同じような経験のある指導者にアドバイザーになってもらうべく、ローバースカウトからアドバイザーを依頼できる体制を整える事を提言する。
- ローバースカウトのニーズにあったアドバイスをしていただきたいので、ローバー隊指導者向けの定型外訓練、研修を行える環境を準備してもらうことを提言する。

F. 海外派遣

海外派遣事業に対し、認知度と参加者が少ないという現状を考慮し

- 派遣参加者自身が県連盟、地区の総会やフォーラムなどの場で派遣対象者や指導者などへの報告の場を設け、派遣内容の普及に努める。
- 海外派遣事業に対する内容の洗練と参加者のフィードバックのため、派遣募集要項の事業日程に日本連盟主催の報告会を行う旨を明記することを提言する。
- 直近の海外派遣事業に関するドキュメントを閲覧できないという現状を鑑み、海外派遣事業の内容の周知と宣伝のため、海外派遣の報告書や写真などのドキュメントをホームページ上にさらに充実させることを提言する。

G. 社会のニーズに対応するスカウティング

スカウト活動に興味があっても活動内容を知らない一般の人々がいることを考慮し

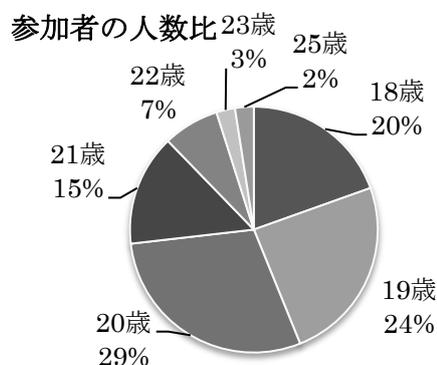
- 地域清掃・スカウト技能を用いたレクリエーションを盛り込んだキャンプ体験等、一般の人々が参加できるスカウト活動を展開する。
- その情報を一般の人々が入手できるように新聞折込やラジオ広報等、活動参加の広報を積極的に行う。
- 日本連盟のホームページを閲覧した一般の人々の近隣で開催されるスカウト活動を検索できる機能を設け、日本連盟・県連盟、各地区のホームページとの間でハイパーリンクの強化、各地区の年間プログラムや次回活動の概要等を一般の人々が閲覧できるように公開することを提言する。

※採択文、提言文の■マークは、ローバースカウト自らが主体的にアクションを起こす項目、

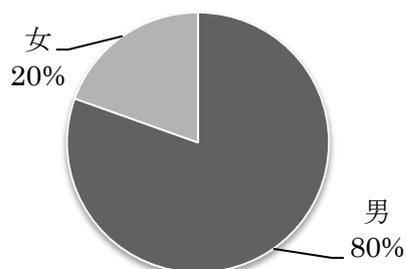
- マークは、その活動を行うために、県連盟または日本連盟に対し支援をお願いしたい提言、と位置付けています。

平成23年度ユースフォーラム アンケートとコメント

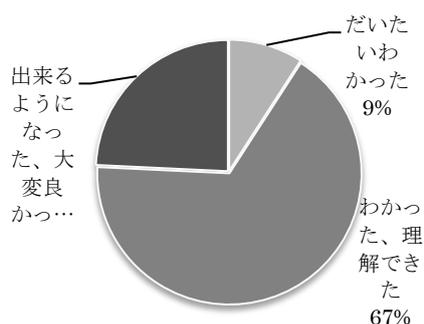
フォーラム参加者合計41人の人数比と男女比



参加者男女比

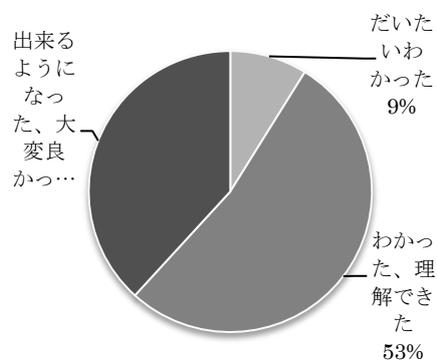


開会式・オリエンテーション



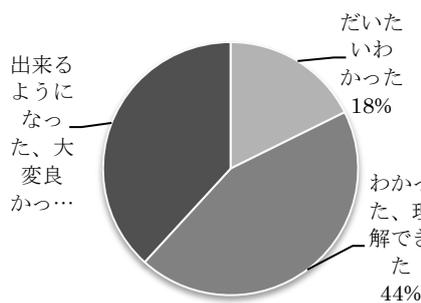
- ・テキパキ進んでいて良かった。
- ・オリエンテーションは分かりやすかった。
- ・簡単に済まされ過ぎている感じがした。
- ・簡潔にまとめられて良かった。
- ・もう少し固い空気があっても良かった。

フォーラム導入



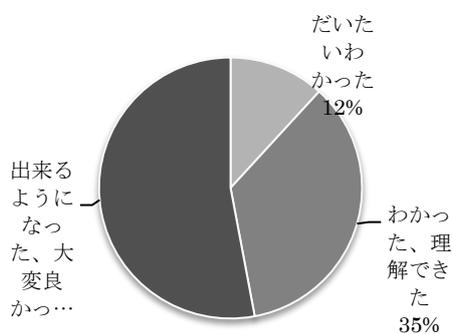
- ・ビジュアル的にも非常に効果的
- ・フォーラムの目的がはっきり分かった。
- ・分かりやすい説明でフォーラム初参加の自分でもよく分かった。
- ・理解は十分にできるが、世界フォーラムを例にするのは少し違うと思った。

アイスブレイキング



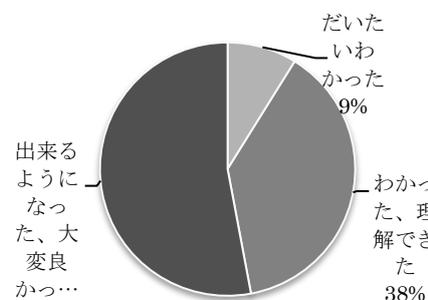
- ・仲間と交流できて楽しめた。
- ・ほどよく緊張がほぐれた。
- ・分かりやすいゲームだが、25個はなかなかない。
- ・内容的に時間が足りなかった。
- ・自分の団でもやってみたい。

セッション①：ローバー活動の実情と課題について



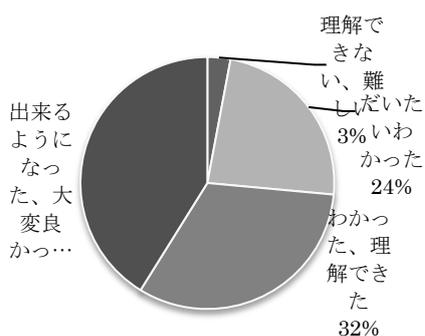
- ・ローバーの活動が少し分かった。
- ・パネルディスカッションを導入することで、イメージを掴みやすかった。
- ・自分たちの抱える課題が分かった。
- ・他の意見を聞くことで、考え方が幅広くなった。
- ・自分でテーマを選ぶことができ、充実したものとなった。

セッション②：フリーセッション



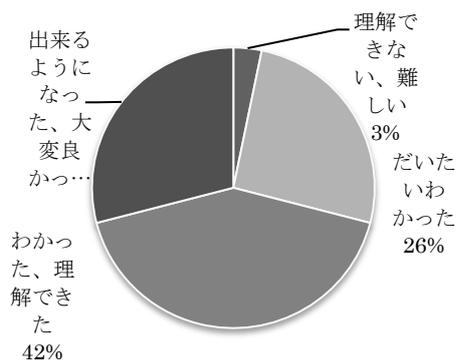
- ・自由な議論で討論できて良かった。
- ・今まで知らなかった問題に出会い、それについて良く話し合えた。
- ・意見を聞きたい人ばかりが集まるグループになってしまった。
- ・もう少し積極的に項目をしぼることも大事かもしれない。
- ・初めて自分の話し合いたい事ができた。

セッション③：全国レベルの活動



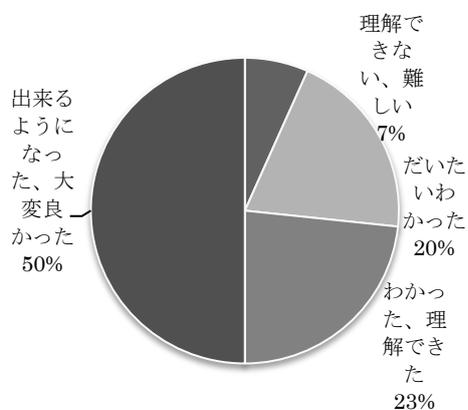
- ・話題は難しかったが、実りある話があった。
- ・具体的な提案があまりなされなかった。
- ・時間が足りなくて、内容が最後まで行かなかったのは残念。
- ・本質に近づいてきて、とても意義のあるものだった。
- ・全体会に向けての良い下準備になった。

メディテーション



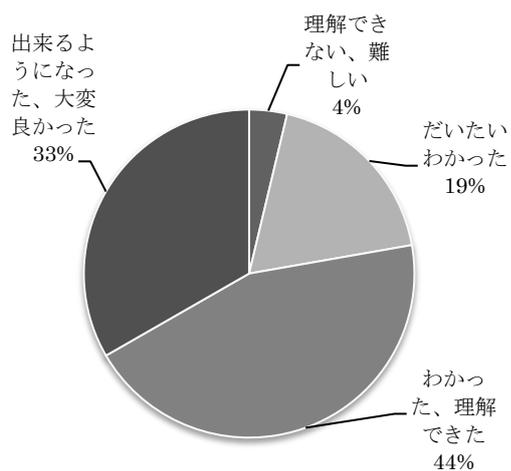
- ・まとまっていて良かったと思う。
- ・このようなものが用意されていると思っていなかったなので、驚いた。
- ・あまり効果的ではなかったかと思う。
- ・全体会を前に、真面目な気持ちになれた。
- ・採択までの流れがだいたい分かった。
- ・感動した。

全体会



- ・各自、有意義な議論ができたと思う。
- ・採択の進め方が頭の固さを感じた。
- ・もう少しスムーズに進めて欲しかった。
- ・議長団を選ぶ際に、希望だけで決めたのか、能力も考慮したのか知りたい。
- ・他者の意見を聞くことはできたが、人数の多さや考えかたの違いがあるので、まとまりにくいと感じた。

採択

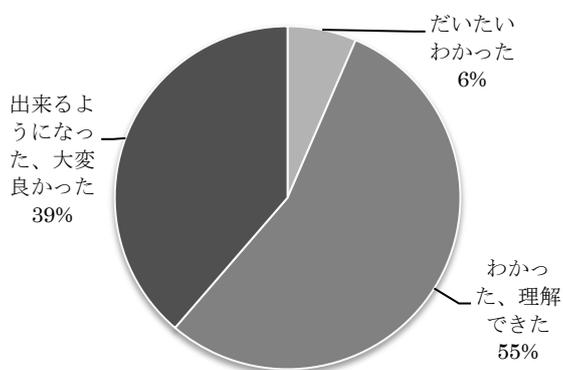


- ・理想的だった。
- ・話がなかなか進まなかった。
- ・激しい議論がよい刺激になった。
- ・もう少し委員の冷静な判断が欲しかった。
- ・把握しきれない部分があり、理解が遅れた。
- ・円滑ではない部分もあったが、頑張っていたと思う。

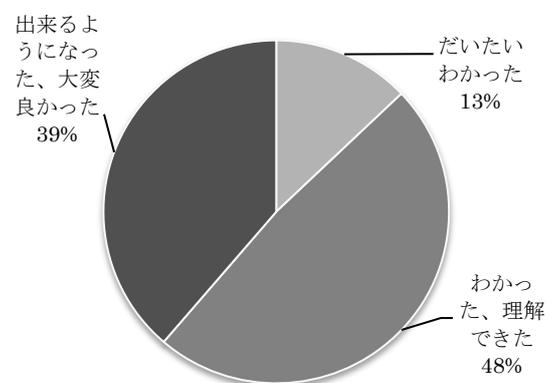
フォーラムに参加したあなたの目的を教えてください。この経験をどのように活かしますか？

- ・ユース年代として、勉強しに来た。指導に有効活用したい。
- ・フォーラムに参加したことがないので、一度は経験しておこうと思った。
- ・他隊の現状とそれぞれの指導方針を知ること。
- ・県連盟の同年代スカウトとの交流と意見交換。議論された内容を自分の県に持ち帰りフィードバックしたい。
- ・連盟の代表として、またユース年代を迎えた個人として、他のユース年代の方々がどのような活動をしているのか学ぶため。自分の連盟に持ち帰り、活動の指針を考えたい。
- ・ローバースカウト活動がまともにできていないため、このフォーラムを通して活動を広げ、活発にしたい。
- ・全国にいるスカウトと知り合い、今後の16NJ、23WSJに備える。
- ・ユースとして活動する今後の方向を考えることを目的としていた。今回のフォーラムを活かし、ユースとして自分ができることを積極的に実行していきたい。
- ・原隊のローバーが栄えるための解決策をみんなで見つけ、たくさんの考え方を聞いたかったから。地区に持ち帰り、ローバー隊から栄えさせる。
- ・ローバリングをより良い形にしていきたくったから。
- ・全国のローバースカウトの流れを知りたくったから。
- ・他県連では、ユース年代の活動をどのように行っているのか知りたくったため、参加した。今回得たものを県ムート実行委員会に持ち帰り実際に行いたい。
- ・まず、原隊にローバー隊を作ります！
- ・とにかく新しい風を！！

目的は達成できましたか？



フォーラムの満足度は？



スタッフについての評価を詳しくお願いします。

- ・丁寧に手助けしてくれた。説明時のスライドも分かりやすい。
- ・全体としてスムーズに進行ができていてすごいと思った。
- ・委員の皆さんのスライドを使用した導入説明はとても分かりやすく、ためになるものであった。その他の、フォーラム中のサポートも有意義なものであったと思う。
- ・行き詰まっている時に良いアドバイスがもらえて、視野が広がった。
- ・同じユース世代であるにも関わらず、高い考察力に驚きました。お陰様で色々勉強になった。
- ・フォーラム中の裏方など、フォーラムをやりやすく支援して下さいました。
- ・脱線した時に適切なアドバイスをもらったので、初めてでも不安なくできました。
- ・様々なところで気遣って頂き、より良いフォーラムになるように導いてくれたので、大変助かった。また、同世代のスタッフも多く、相談しやすかった。
- ・随所、適切なアドバイスを与えてくれる良いアドバイザーだったと思う。
- ・各セッションの担当者によって進行方法が若干異なっていたが、とても分かりやすかった。
- ・自分と一歳違うだけなのに、素敵でした。場数を踏んでおり、私たちにそっと寄り添ってアドバイスをくれた。気にかけて頂いた。

フォーラムの運営、施設、食事などについての意見をお願いします。

- ・分かりやすい説明、流れがスムーズで良かった。
- ・議題があり過ぎて頭がこんがらがる。
- ・会場の移動時間をもったいない。食事の量やアレルギーなどの質問を事前に行ってほしい。
- ・テーマ設定は分かりやすく、自ずと最後の形に持っていくことができた。ただ、セッション3において難しいテーマがあったので、それには困った。施設に不満はない。食事もおいしかった。
- ・ご飯もおいしく、風呂も入れ、最後のスカウト会館の行事に参加できて良かった。タイトなスケジュールだったのが、辛かった。二泊三日くらいでゆっくり議論したい。
- ・フォーラムの主目的である、他のスカウトとの意見交換通した提言文の作成に取り組むにあたって、有意義な議論ができるような環境が整えられており、ありがたかった。
- ・分かる人だけで進めている場面があったので、初心者にも分かりやすい運営をお願いしたい。



アンケートにご協力頂きありがとうございました。フォーラムの感想

- ・初のフォーラムで、聞く立場が多かったけれど、多くの考え方や地区・県でのスカウティングの実態が分かって勉強になった。
- ・「ユースフォーラム」なのに「ローバー」に話が特化していたので、ベンチャースカウトは戸惑っていた。ローバーの話をするなら、V S参加者は事前に少し勉強が必要だと思う。
- ・遠方からの参加は経済的に厳しいから、補助が欲しい。
- ・良い経験をさせて頂いた。
- ・言いたいことをほとんど言えたので良かった。
- ・フォーラム自体が初めての経験だったが、とても良い体験が出来た。原隊に戻ってもフォーラムをやってみたい。
- ・今回のフォーラムに参加した中で一番感じたのは、自分の勉強不足であった。しっかりと目的を持って参加したつもりだったが、実際には定まっていなかったことや理解できないこともあった。もし、チャンスがあれば、勉強してもう一度チャレンジしたい。
- ・全国大会におけるローバーの実情が分かって良かった。
- ・起草が短い時間で厳しいとは思いますが、もう少し頑張ってもらいたい。ボーイスカウトの知識不足が目立った。
- ・すごく楽しかったが、少し不完全燃焼な所もあるのが残念。
- ・他県の人意見を聞くことが出来て良かった。自分の県に持ち帰り、どう活かすかは自分にかかっているから、しっかりと頑張っていきたい。
- ・ローバー年代が中心の話なので、ベンチャーである自分にはわからない話が多かったが、良い経験になった。
- ・色々な人の意見や想いを聞いて良かった。
- ・初めてのフォーラムで自分の意見を出すことが出来たが、途中、発言のレベルの高さについていけない時があった。しかし、良い経験になったことは間違いない。大小に関係なく、今後もこのようなフォーラムに参加していきたい。
- ・参加することに迷いがあったが、実際に参加してみると充実した期間を過ごすことが出来た。自分自身のやる気の向上にもつながったので、参加して良かった。後輩にもこの魅力を伝えたい。
- ・富士章取得スカウトが非常に多くて驚いた。自分よりも深い考えを持っている人ばかりで勉強になるフォーラムとなった。今後の活動のための良い刺激となった。
- ・全ての県から代表が出てくるようなフォーラムにしていきたい。
- ・大変勉強になった。次回も参加したい。

-平成23年度ユースフォーラムを終えて-

平成23年度ユースフォーラム実行委員 津田 繁
(日本連盟プログラム委員)

私にとって今年度のユースフォーラム実行委員は初めての体験でした。実行委員会は膳師実行委員長
の元、高橋さん、鈴木さん、羽根田さん、ローバースカウト年代の実行委員、そしてプログラム委員会
からは黒澤さんと私で6名編成でした。ローバースカウト年代の実行委員の方々は一泊2日の短い期間であっても、また、「ロ
ーバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について」と言う難しいテーマにもかかわらず参加者を
上手く支援し、テーマに関する課題・解決策を「採択文・提言文」にまとめる作業をする議長団を上手
く導いていただきました。

また、今回は黒澤委員の提案において Facebook などのネットワークを活用しリアルタイムでユースフ
ォーラムの場を全国に、全世界に発信していただきました。フォーラム中参加者の携帯電話に Facebook
を見た参加していないスカウトからメールが入ったことは驚きでした。今回のフォーラムはテーマ「ロ
ーバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について」と言うことでしたので全国各県連盟から県連
盟を代表するスカウトを選出していただきました。しかし、47都道府県のスカウトの参加は得られま
せんでしたが全国から29県連盟41名のスカウトが自分たちがおかれている環境、活動している現状
に対して、自分たちに必要な支援は何か、自分たちの活動しやすい環境は何か、を熱心に討議されま
した。

私は1泊2日、沢山のスカウトの声を聞くことが出来ました。私たちはスカウトたちの声「採択文・
提言文」を真摯に受け止め出来るだけ早い時期にスカウトが活動しやすい環境作りを進めなければなら
ないと実感しました。この「採択文・提言文」はスカウトがすること、支援を求めることが書かれてい
ます。スカウトの求めに対する支援は指導者の使命だと思います。全国の指導者のますますのご支援を
お願い申し上げます。

—ユースフォーラムが終わって—

平成23年度ユースフォーラム実行委員 黒澤 岳博
(日本連盟プログラム委員)

まず、参加者の皆さんにお礼を申し上げます。参加者の皆さんは、1泊2日というとても短い時間の中で、今後の日本のボーイスカウトのために最善の形を作ってくれたと考えております。2日間で行われた様々なテーマの議論に真摯に取り組み、それぞれのテーマに関する課題、問題を解決する方法を「採択文・提言文」として、積極的にまとめてくれました。

もともと、今回のユースフォーラムのテーマは「ローバースカウト年代の活動の強化と必要な支援について」であり、議論をすすめること自体がこのテーマに合致したものであるわけですが、参加者はそれ以上の成果を上げてくれました。今回の採択文・提言文が実現していけば、日本のボーイスカウト運動の更なる発展が期待できると感じています。

今回、「若手実行委員」として、高橋さん、鈴木さん、羽根田さんが企画・計画・実行・反省と、ほぼ全ての流れをつくってくれたことにより、正しい意味での「青年参画」を実現できたと考えています。若手実行委員の3人はばりばりのローバー年代。青年参画を見据えたこれからの日本のボーイスカウト運動では、彼らのように積極的、主体的にローバー活動を進めてくれる存在に活躍してもらおう体制を整えていかなければならないと実感しました。それも継続的に・・・。

また、今回は USTREAM、Twitter、Facebook といったソーシャルメディアを積極的に活用しました。実行委員会でのアイデアから「ネットワークの活用」を試みたわけですが、41人のユースフォーラムの参加者に加え、期間全体で900件を超えるアクセスがあったことは特筆すべきであると思います。なお、この期間内には、Twitterを活用して、十数名の方から御意見を伺うことができました。

ユースフォーラムのほぼ全プログラムを収録したこの動画は、埼玉県連盟広報委員会の御協力により、これからも埼玉県連「生中継サイト」に掲載されています。是非御覧の上、ユースフォーラム参加者諸君の「勇姿」を御確認いただければと思います。

(参考URL：<http://www.ustream.tv/user/scout-saitama/shows>)

情報技術の活用はこれまでも様々な形で取り上げられてきました。今回は「事前・事後」を含めて、多くの方にユースフォーラムに関与していただき、新たな視点を加えることができたのではないのでしょうか。情報技術をより積極的に活用していくことは、今回の提言文にもあるとおり、23WSJなどを見据えた今後の活動等でも重要になると考えています。今後のローバー全国組織構築の際にも是非検討してほしい視点であると思います。

あとは「実践」です。ユースフォーラムの参加者が地元に戻って、今回の議論をしっかりと根付かせることができるかどうかにかかっています。日本連盟プログラム委員として、また、ローバースカウト経験者として、私も微力ながら努力していきます。採択文・提言文の実現に向けて、各団、各地区、各県連盟のユース世代の皆さん、指導者の皆さんの御協力を切にお願いします。

-平成23年度ユースフォーラムを終えて-

平成23年度ユースフォーラム実行委員 高橋 一樹
(京都連盟 与謝第1団ローバー隊)

フォーラム関連の日本連盟事業に何回か参画するなかで、私が訴え続けてきた「やりっぱなしからの脱却」にまた一步近づけたフォーラムになったと思います。勿論、本当の成果が問われるのはこれからですが、その火つけは随所で行うことができました。

今回の採択は決して真新しいものではありません。以前のフォーラムでも散々議論になった項目が散見されます。つまり、解決されないまま放置された課題が山積している現状を浮き彫りにしています。よくローバー部門については理想論の机上の空論で激論が交わされることが多く、アクションを伴うものは全国的に見ても現状から言えば少数派と言わざるを得ません。裏を返せば、それだけローバーに対する期待値が大きいことも伺えます。このフォーラムを機に、少しでも movement を前進させるべく、行動に移していきます。採択で終わりではなく、これをどのように実行していくのかについてもスカウトが実行しやすいような環境作りを進めていく必要があるように思います。過去のフォーラムのように「やりっぱなし」にならないように引き続き継続的な支援をよろしくお願いいたします。

フォーラムのプログラムデザインについては、一定の成果が得られたものの、フォーラム経験者と未経験者との温度差、議論に不慣れな参加者へのフォローアップ、議長団の起草作業の時間配分の見直し等、引き続き検討すべき課題も見えてまいりました。「フォーラムは理論より実践」であるがゆえに、次回以降フォーラムを運営される皆様にこの課題の解決は委ねようと思います。そのためにも、フォーラム経験者の実行委員会への参画を今後ともご検討いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、未熟な私にこのような機会を与えてくださった日本連盟プログラム委員会の皆様、様々なアイデアを提供してくださった実行委員会の皆様、裏方に徹して全面的にバックアップしてくださった日本連盟事務局教育部プログラム課の皆様、そして多くの新たな「気づき」を与えてくださった参加者の皆様に心からの謝意を表します。

弥栄

-平成23年度ユースフォーラムの振り返り-

平成23年度ユースフォーラム実行委員 鈴木 裕大
(山形県連盟 山形第29団ローバー隊)

今フォーラムは、ローバー年代が抱える課題を浮き彫りにするような重要な役割を担うことになったフォーラムであったと思います。参加者の中で、ベンチャースカウトとして活動しているスカウトの「ローバースカウトとはどういうものなのか、そしてどうあるべきなのか」といった意見を聞き、彼らのスカウト活動の中、あるいはこれからの活動の中に潜む課題の一つが明らかにされたように感じています。

今回のユースフォーラムの特徴は、議論の集大成として参加者が作り上げた採択文が、参加者のアクションプランの部分、そして日本連盟等に対する提言文という形で、参加者がユースフォーラムに参加して議論して皆で決定したことに対して責任を自ら果たすことができるような形となっています。参加したスカウトが、参加しなかったスカウトも巻き込んで、どのようなアクションプランを展開していくか、非常に楽しみです。特に、ユースフォーラム中の議論ではローバースカウトとは何なのか、どうあるべきかはっきりしていなかったスカウトたちが、どのような道をこれから歩いていくことになるのか、楽しみでなりません。

実行委員として関わることは、初めてで、とても素晴らしい機会をいただけたと思っています。事前準備をして、実際に運営をし、様々なことを胸に秘めて議論する参加者の様子を見ると、実行委員として仕事をさせていただいたことが本当にありがたいものであったことがわかります。ボーイスカウトは、教育運動です。後輩スカウトが育っていくことに勝る喜びは、スカウトである私にとっては他にはありません。

弥栄

-平成23年度ユースフォーラムを振り返って-

平成23年度ユースフォーラム実行委員 羽根田 賢
(愛知連盟 豊田第16団ローバー隊)

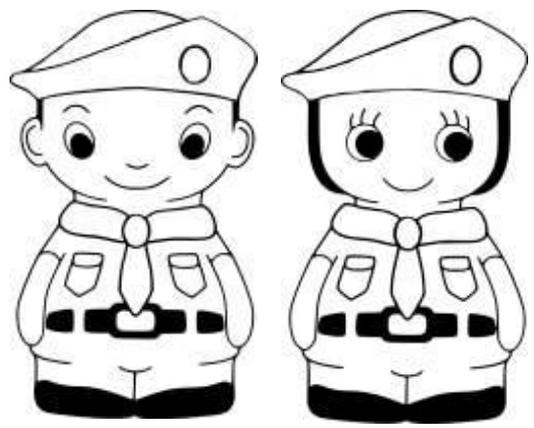
この度は日本連盟主催のユースフォーラムに実行委員として奉仕させて頂き、ありがとうございました。フォーラムに参加するスカウトとは違った視点でローバリングについて考えるきっかけとなりました。

今回のユースフォーラムでは、1月に行われた第11回世界スカウトユースフォーラムへ参加した代表スカウトからの日本連盟への提言の一部が議題として取り上げられました。また全国から多くのローバースカウトがこのフォーラムに参加していただきました。そのほか、新たな試みとして行われたFacebookによる広報やUSTREAMによるフォーラム同時生中継により、会場に居ない関係者からの助言なども踏まえてより良い討議が出来たのではないかと思います。

今回、決議された採択文は前回のユースフォーラムに比べて、より実践しやすい内容になりましたと思います。決して妥協したのではなく、より行動に移しやすい内容としてまとめました。「行うことによって学ぶ」という言葉があるように、卓上で話し合うだけで終わってしまってはいけません。話し合ったことを次はそれぞれのフィールドで実践することに意味があると思います。日本連盟としてもこの採択文を受けて動き出そうとしています。参加者にはここで話し合ったことを各々の県連・地区・団にフィードバックし、更に具体的なアクションプランとして行動に移してもらうことを期待します。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった膳師実行委員長を始め実行委員会の皆様、プログラム委員会の皆様、そして運営に関して万全のフォローをしていただいた事務局の皆様に感謝の意を申し上げます。ありがとうございました。

弥栄





公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒113-0033

東京都文京区本郷 1-34-3

Tel:03-5805-2634/Fax:03-3830-3678

URL: <http://www.scout.or.jp/>